

基本を変えない



基本に立ち返る

今、世界は、再び激しい変化の只中にあると認識しています。そしてその影響でしょうか、私には人々の心から自分との違いを受け入れ協調していくという精神が急速に失われつつあるような気がしてなりません。このような考え方は、最終的に誰のためにもならないものだと思えます。

矢崎グループでは、これまで「世界とともにある企業」「社会から必要とされる企業」という社是を大切にしてきました。矢崎グループを取り巻く環境がどのように変わろうと、これからもこの姿勢を変えるつもりは決してないことをまず申し上げておきたいと思えます。

創業社長・矢崎貞美が「ものづくりを通じて社会に貢献したい」という想いを胸に事業を開始してから、おかげ様で76年が経過しました。これもひとえにステークホルダーの皆様の支えがあればこそと、心から御礼申し上げる次第です。創業当時からすれば、矢崎グループを取り巻く環境は様変わりし、また事業規模も種類も比較にならないくらい大きくなりましたが、創業社長の想いである社是は変わることなく受け継がれています。本レポートでは、私がもち続けている社是への想いやそれに基づく取り組みについてお話しします。

矢崎総業株式会社 代表取締役会長

矢崎 裕彦

地域との対話を通じた信頼関係の構築

矢崎グループが工場を設立する国・地域には、途上国と言われる国も少なくありません。そのような地域に事業を展開し、多くの人手を必要とするワイヤーハーネス製造で雇用を創出し、少しでも多くの人にやりがいや責任、達成感を感じてもらうことはとても価値のあることだという信念をもって今まで事業を営んできました。

ただ、現実には、時に撤退といった辛い判断をやむを得ず行わなければならない場面もあります。これも含め、矢崎グループはいかなる場面でも納得がいくまで相手に正面から向き合い対話を尽くしてきました。この考え方を象徴する言葉のひとつに「また来いよ」があります。これは、撤退や閉鎖に際し相手からこの言葉を掛けてもらえるまでは粘り強く最大限の努力をすべし、という矢崎グループの誰もが理解している暗黙の文化

ことの大切さ

を表しています。事業上の判断とはいえ、一度でもともに仕事をした仲間には最大限の配慮をしなければならない、そして願わくば撤退の後も矢崎グループのファンでいてもらうこと、これこそが矢崎グループが地域社会とのお付き合いにおいて、最も大切にしている考えです。

直近の事例として、サモアの取り組み^{*}を紹介したいと思います。サモアでは26年間ワイヤーハーネスの生産を行い、文化も環境も違う人たちとともに汗を流し同じ目標に向かって大きな発展を遂げることができました。しかし残念ながら事業環境の変化により、2016年生産終了を決定するにいたりました。以来、従業員やサモア政府とも対話を重ねながら、短期的には従業員の再就職支援教育の実施、長期的にはサモアが持続可能な発展を続けていくための支援方法の検討を行っているところです。これはひとつの例ですが、地域社会と信頼関係を築き、そして維持していきたいという姿勢はどのような場合でもいささかも変わりありません。

社是を实践するための人づくり

社是を継承していくのは、結局は「人」そのものです。この考えに立ち、矢崎グループは創業以来「人づくり」を大切にしてきました。とくに、若いうちに異文化や多様性を肌で感じてもらうことで、自分の利益だけでなく相手や社会のことを考える力を育てたいと常に願ってきました。一人ひとりの成長支援はもちろんですが、これはまた普遍である社是を次代以降も継承していくための取り組みでもあると考えているからです。

具体的な取り組みのひとつは、1993年から続けているアドベンチャースクールです。これは若手従業員を対象に、海外でさまざまな経験の機会を提供するもの

で、異なる言語、文化、環境のなかに放り込まれて苦しさや寂しさを経験し、それを乗り越えるチャレンジ精神を身につけることを目的としています。

また、従業員の子を対象に1977年から毎年開催している矢崎サマーキャンプは、子どもたちの学習の場であると同時に、これ以上ない従業員の育成の場でもあります。自ら手を挙げ、子どもたちの指導員になった若手従業員は、1週間業務を離れ、国内もしくは海外のキャンプに参加し、子どもたちの貴重な経験を全力で支えます。今では、かつてキャンプに参加した子どもたちが大人になり、矢崎グループの従業員として働く例も珍しくなくなりました。まさに社是の継承、つながりを感じているところです。

これら2つの取り組みは内容こそ違いますが、「世界とともに、社会から必要とされる企業」を支えるグローバル人材を育てるための重要な取り組みと位置づけています。自ら困難を打破する、あるいは誰かのためになることを考え行動に移す、このような人材こそが、のちに世界のどこの地域でもどのような環境でも適応し、社是の継承を担ってってくれると確信しています。

これからも、社是の実現を胸に世界で活躍できる人材を育成していきます。そして、これこそが企業ができる真の社会貢献であると私は考えています。

今後もステークホルダーの皆様の声に耳を傾け、期待に応えることで持続可能な成長を実現していきます。ステークホルダーの皆様には一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

^{*} 27-28ページ 地域社会への責任Close Up「サモアと歩んだ26年」参照